

第14号

発行日
2021. 11. 5

Super Highway

JR東労組バス関東本部



JR東労組ホームページ

申3号 「2021年度年末手当に関する申し入れ」

第1回団体交渉開催！ その1

JR東労組の要求について趣旨説明を行い満額回答を求める！

【私たちの要求の根拠】

新型コロナウイルス感染症拡大から間もなく2年が経過する中においても、社会インフラとしての使命を果たすべく、安全を第一に業務の遂行と世の中の変化に対応すべく施策などについても真正面から向き合い続けてきた。

第二四半期決算では、運輸収入で対前年比 135.7%、営業収益で対前年比 127.7%と、昨年の同時期よりも収入は着実に回復をしている。 組合員が安全安定輸送の確保とお客さまに安心してご利用頂くための努力を惜しまず、オリンピック・パラリンピック輸送、ワクチン接種輸送、列車代行輸送を担ってきた事や、他社への出向等の会社施策に働き合い、業績回復に向けて日夜を問わず奮闘してきた職場の努力の結果である

春闘では定期昇給を実施するも所定昇給額の4分の2と、将来の賃金が目減りする状態にあり、それに加え夏季手当の大幅な減により、年収も減少した結果となった事で、確実に組合員・社員の生活は苦しくなっている。**この間の職場の努力と奮闘が十分に還元されない状況が組合員 社員のモチベーションを低下させている現実を強く認識すべきだ。**

将来に希望が持てず退職の道を選択した社員が多く出ている現実、**今後のJRバス関東の発展を考える上では、新型コロナウイルス感染症の以上の危機と捉えるべきだ。** 年末手当の結果で今後の判断をするという声も少なくない状況を重く受け止め、「人」への積極的な投資により、JRバス関東で働く事の魅力と、モチベーションを向上させることが必須である。そのことが人材流出を防ぎ、会社発展の原動力に資する人材確保にも繋がる。

【会社の認識】

対前年同時期はコロナの打撃を受け一番ひどい状況だった。2021年第二四半期は前年比を上回る状況で一定の評価はできるが会社としては**厳しい現実が変わりない。**

オリ・パラや列車代行の社員の努力に御礼申し上げ、会社も評価している。しかし対前年比収入は上回るが、対前々年比では3割程で収益構造のなかではコロナの**打撃はそのままである。**

徐々に人出が増えて輸送動向は改善しつつある。秋の行楽シーズンで観光需要はのびているが、短距離輸送は低調で、空港線に関しては全く回復していない。貨客混載や関連事業など輸送以外の収入確保に取り組んでいく。

コロナの第6波も考え、楽観はできない。業績の回復に対する組合員の努力は評価するが会社としては依然として**厳しい状況である。**

厳しい状況下においても組合員が奮闘し続けてきた結果、収入を確保し、昨年と比べ業績は回復していることを重要視して、満額回答すべきだ！

その2へ